

2013年2月19日

## 3年連続、インドネシア政府から表彰！ PT.Epson Batamが取り組む環境活動



インドネシアのバタム島に居を構えるPT.Epson Batam(以下エプソンバタム)は、インクカートリッジ生産拠点であるとともに、半導体(IC)実装、スキャナー生産も手掛ける、モノづくり企業エプソンにとって要となる拠点の一つです。インドネシア政府からも高い評価を受けている、このエプソンバタムでの環境活動を紹介します。



### ノンクリーンルームを全社展開

エプソンバタムは、インクカートリッジ生産、IC実装、スキャナー生産といった複数の事業を手掛ける拠点ですが、トップマネジメントの号令の下、全事業が一体となって環境活動に取り組んでいます。

2010年度にノンクリーンルーム環境でのスキャナー生産を実現し、大幅なエネルギー削減を成功させましたが、このスキャナー生産で培った落塵管理技術をインクカートリッジ事業、IC実装事業へも展開しました。これにより、エネルギー削減はもちろんのこと、費用削減効果と、防塵着から解放された作業者の作業環境も格段に向上しました。



ノンクリーンルームでのインクカートリッジ生産



手元だけドームで覆いクリーン化したスキャナー生産ライン

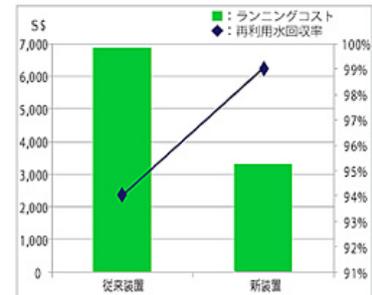
また、エプソンバタムでは生産工程のみならず、環境を意識した物流改革にも取り組んでおり、倉庫スペースの削減、製品梱包材の社内再利用などを全事業で展開しています。オープン廃棄ダクトの断熱対策や、検査機器ライトのLED化など、工場のいたるところで環境とコストを意識した施策を実施しています。

### エコとコストを両立したインク廃液処理システム

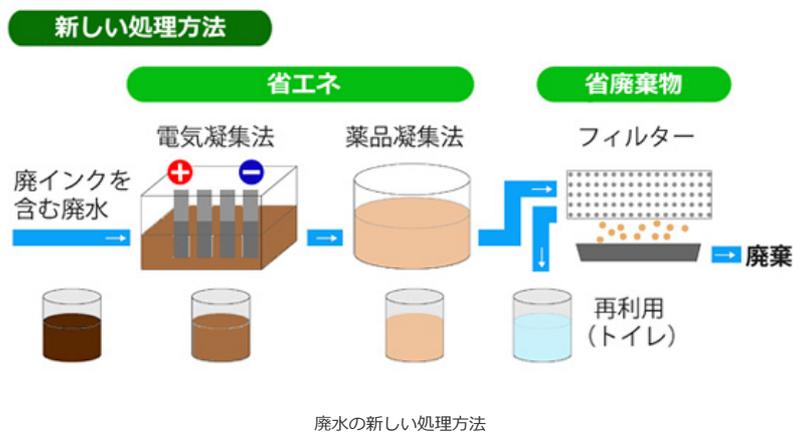
インクをブレンドする工程では、機器の洗浄などによって廃インクの混ざった廃水が発生します。従来は熱をかけてインク成分と水分を分離する方法で処理していたため、非常に大きなエネルギーが必要で、電気代、スラッジ(最終に残る固形の廃棄物)の廃棄処理費用などのランニングコストや処理装置の購入費用も非常に大きなものでした。エプソンバタムは、インクカートリッジ増産に伴い、メッキ事業において高い廃水処理技術を持つSingapore Epson Industrial Pte Ltd.のメッキ部門と共同で、独自の新しい方式の廃水処理装置を開発・導入しました。新しい処理技術は、電気と薬品を用いてインク成分を分離させるため、従来の熱処理が必要なくなり使用エネルギーを大幅に削減することができました。また分離レベルが格段に向上したことで、スラッジの廃棄量を従来に比べ78%削減することができ、ランニングコストも54%削減できました。さらに装置設置面積も58%減となり、エコとコストの両面で大きな効果を上げています。



共同開発した廃水処理装置



ランニングコストと再利用水回収率



## エプソンバタムが取り組む社会貢献活動

### <植樹活動>

エプソンバタムでは、「Hijaukan Pantai, Hijaukan Bumi」(インドネシア語で「緑の海、緑の大地」)を合言葉に、学校、公共施設、浜辺、現地集落などへの植樹を毎年行っています。2006年から2012年までに1,295本の木を植えており、今年度は地域の集落でマンゴー50本の植樹とナマズ12,000の放流を行いました。この活動は今後も継続していきます。



社員による植樹活動

### <小学生向け環境教育>

将来の社会を担う地元の小学生を対象に「Kids Go Green」と題した環境教育を行っています。2011年度は約70名の生徒たちを会社に招き、環境についてのミニゲームを交えたプログラムで楽しく学んでもらいました。